

## 2月18日（土曜日）

初日、最初の目的地は福島県環境創造センター「コミュニティン福島」です。英語で施設の案内をしていただき、福島の復興の歩み、放射線対策・環境の回復について学びました。「放射線」についての詳しい説明、震災後現在までの除染対策や復興状況を聞き、県内に在住している参加者の知識に大きなプラスになったと思います。また、福島の四季を写した最新の360度パノラマシアターやニコニコ動画のようなメッセージパネルにも、参加者は釘付けでした。英語で対応していただいたので、参加者は出発時間ギリギリまで質問をして有意義な時間を過ごしました。



昼食は会津若松市へ移動し、地元で人気の『十文字屋』で「喜多方ラーメン」と「ミニソースかつ丼」のセットをいただきました。会津の名物を一気に2つ味わい、参加者も満腹・満足でした。



午後は、飯盛山で『粟まんじゅうの手作り体験』です。小池菓子舗の社長さん自ら、飯盛山の麓の「お土産品店 とらぞう」の2階で体験を指導してくださいました。日本語で「災難に遭わ（粟）ないように」という意味が理解できたかは別として、参加者は皆初体験の饅頭作りを楽しみ、粟まんじゅうの美味しさに舌鼓を打っていました。その場で蒸したての粟まんじゅうを食べ、自分で作った粟まんじゅうを持ち帰ることができる充実した体験でした。







粟まんじゅうを蒸してもらっている間、参加者は飯盛山を散策しました。『白虎隊記念館』で、白虎隊の歴史を学び、飯盛山で起こった悲しい出来事に思いを馳せ、『国指定重要文化財 さざえ堂』で登る人・下る人がすれ違わない不思議を経験した頃、手作りの粟まんじゅうが蒸しあがりです。自分の名前が張ってある粟まんじゅうを受け取り、本日最後の見学地へ向かいます



初日の締めくくりは『会津藩校日新館』です。日本の文化に興味を持っている参加者が多く、会津藩士の教育の場として設立された日新館は、伝統文化に触れる良い機会となりました。会津藩士の「掟」を学ぶDVDは、英語の字幕付きだったので、武士の暮らしを見るだけでなく、とても勉強になりました。弓道や起き上がり小法師の絵付け体験など予約なしで行うことができたので、弓道をやってみた参加者も多いようです。

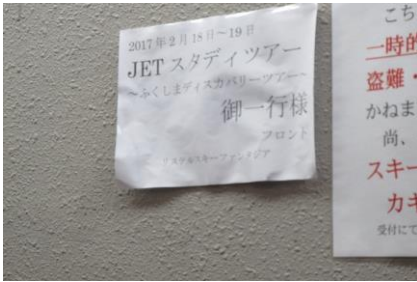


2月ツアーの宿泊先は、ホテル リステル猪苗代です。JET 参加者は温泉好きが多く、皆が楽しみにしていました。露天風呂には、珍しい「大根風呂」が用意されており、豪華な食事をいただき、存分に『温泉』を満喫できました。夕食中には、県内で働くJETが交流・情報交換し、福島の魅力について語り合いました。



2月19日（日曜日）

2日目は、朝食後に集合し待ちに待った「スキー／スノーボード体験」です。ウェア・ブーツ・板と、全てレンタルで適正サイズを用意していただき、至れり尽くせりでした。初めてスキー／スノーボードをする参加者には経験者が指導してくれて、傾斜の緩やかなゲレンデで冬の福島を楽しみました。午前中はあっという間に時間が過ぎ、昼食はホテルで「地場産食材弁当」をいただきました。アレルギーやベジタリアンへの配慮が完璧なお弁当を楽しみ、午後はまたスキー／スノーボード体験です。午前中にリフトに乗れなかった参加者も、皆さんの指導のおかげで午後の終了前には全員リフトに乗ることができました。上手く滑れるようになった参加者も、やっとリフトに乗れた参加者も、とても良い思い出になりました。また、露天風呂が気に入った参加者は、午後に丸々温泉を楽しんだという話も聞きました。



大きな怪我もなく、冬の福島が苦手だった参加者も、「またスキーをしたい」と言っていました。参加者同士の絆も深まり、勤務地区を超えて友達ができたり、休日の集合を約束したり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。

名残惜しいゲレンデを後にし、一行は最後の見学地である「道の駅 猪苗代」に向かいました。ここは平成28年の8月にオープンしたばかりの綺麗な道の駅で、最後のお土産ポイントということもあり、参加者は混雑する道の駅で時間一杯買い物を楽しみ、会津の名産・名物に触れました。



今回のツアーは県内に勤務するJET 22名に参加していただき、充実したスタディーツアーとなりました。残念ですが、最後のJETスタディツアーとなります。最後のツアーに参加できたJETの皆さん、「福島」の魅力をどんどんホームページやSNSで情報発信してください。

最後になりましたが、御協力いただきました見学先の皆さま、本当にありがとうございました。前回からサブタイトルに「～ふくしまディスカバリー ツアー～」と追加したとおり、福島の魅力を発見し、参加者にとって、スタディーツアーとして「福島を学ぶ」だけでなく、とても楽しく思い出に残る良い経験になったと思います。